

特色

同種造血幹細胞移植は造血器腫瘍(白血病など)に対する最も強力な治療法ですが、治療に伴うリスクも大きいため、日本造血細胞移植学会は2019年4月に非血縁者間造血幹細胞移植を施行する診療科の認定基準を更新し、認定カテゴリー1から3を設定しました。当院は、学会の定める認定基準の全ての項目(症例数、血細胞移植学会認定医、HCTCなどのチーム医療の充実)を満たしているためカテゴリー1に認定されました。カテゴリー1が認定されたのは香川県では当院だけです。

また、当院は日本血液学会専門医教育研修施設、エイズ拠点病院、日本骨髄移植推進財団(現在は、日本骨髄バンク)認定骨髄採取・移植施設、認定末梢血幹細胞採取・移植施設、さい帯血バンク認定移植施設に認定され

ています。現在、日本血液学会専門医4名による診療を行っています。これらの血液学会専門医は同時に日本造血細胞移植学会認定医(3名)・日本輸血細胞治療学会専門医(2名)を有しているため、各々の専門性を活かした診療業務の分担や臨床研修医・専攻医の指導を行っています。また、他診療科医師・病棟薬剤師・看護師・臨床心理士・臨床検査技師・理学療法士などとのチーム医療も活発に行っています。

対象疾患(および症候・検査異常)

血液内科では、各種貧血、急性白血病(骨髄性・リンパ性)、慢性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、再生不良性貧血、特発性血小板減少性紫斑病、骨髄異形成症候群、止血・凝固異常などに対応しています。これらを疑う症状・検査異常は下記です。

リンパ節腫大:公式な定義はありませんが1~2cm以上の場合に異常とみなされることが多いです。

出血傾向:四肢・体幹部に点状出血を認めたら、血小板減少の可能性があります。その際に、口腔粘膜にも出血がある際には重篤な出血をおこす確率が高くなるため迅速な紹介が必要です。また、腎障害や意識障害を合併している場合は、TTP(血栓性血小板減少性紫斑病)である可能性があり、この場合にも迅速な紹介が必要です。

白血球増加:慢性白血病、急性白血病、骨髄増殖性腫瘍の可能性があります。白血球増加だけでは緊急性はありませんが、血小板数が2万以下の場合(白血病にDICを伴っている可能性がある)や末梢血に芽球が出現している場合には迅速な紹介が必要です。

末梢血への幼弱芽球(芽球)出現:末梢血には通常存在しない白血球のなかで、骨髄球・後骨髄球であれば緊急性はありません。幼弱芽球(あるいは芽球)が、1%

でも出現していれば白血病の可能性があるので紹介ください。赤芽球が出現している場合は、溶血性貧血の可能性もあり、これもご紹介ください。

血小板減少:基準範囲(施設によりまちまちですが、だいたい14~40万位)より少ない場合は血小板減少です。通常は2万以下にならないと出血傾向は認めません。2万以下で出血傾向を認める際には輸血が必要な場合があります。2万以上であっても皮膚や粘膜に出血傾向がある場合はDICを合併している可能性があるため早い紹介が望まれます。出血傾向がなくても経年的に減少している場合は骨髄異形成症候群などの可能性があります。

貧血:小球性貧血でかつ血清鉄が減少している鉄欠乏性貧血以外の貧血では注意が必要です。骨髄異形成症候群、多発性骨髄腫(ベンスジョーンズ型)、溶血性貧血などの可能性があります。

汎血球減少:血液疾患であれば、骨髄異形成症候群、再生不良性貧血、急性白血病の可能性があります。

総蛋白増加(アルブミン減少):多発性骨髄腫の可能性もあります。

病的骨折:多発性骨髄腫の可能性があります。多発性骨髄腫の中でもベンスジョーンズ型では、総蛋白増加や免疫グロブリン(IgG、IgA、IgM)異常値を認めないことがあるので注意が必要です。

診療実績

当科における最近5年間の同種造血幹細胞移植件数の推移を示します。

	非血縁骨髄	血縁骨髄	非血縁末梢血	血縁末梢血	臍帯血	合計
2017年	5	0	0	4	5	14
2018年	1	0	0	3	2	6
2019年	5	1	3	3	2	14
2020年	5	0	0	2	1	8
2021年	6	0	2	3	0	11

ここ数年全国的にHLAを一致させずに血縁者間で移植するHLA半合致移植(ハプロ移植)が増加し、全移植の半数程度となっています。当院でも全移植の20%以上がHLA半合致移植(ハプロ移植)となっています。骨髄バンクなどを介して行うHLA一致移植に比べて、ドナーが得られやすくGVHDも少ない利点があります。

高松赤十字病院では白血病や悪性リンパ腫などの血液悪性腫瘍の症例が多く、初回の寛解導入から造血幹細胞移植まで一貫して行える体制が整っています。

地域の先生方へ

当科には日本血液学会専門医が4名在籍しており、同時に日本造血細胞移植学会専門医(3名)・日本輸血細胞治療学会専門医(2名)を有しています。これらの専門医が月曜日～金曜日に来院診療を行っています。

すので診断や治療などでお困りの症例がありましたら、地域医療室を通じてご紹介ください。

血液内 ●

腫瘍内 ②

腎臓内 ③

内分泌 ④

消化内 ⑤

循環器 ⑥

脳神内 ⑦

呼吸内 ⑧

感染症 ⑨

精神 ⑩

小児 ⑪

小児外 ⑫

消化外 ⑬

胸乳外 ⑭

脳神外 ⑮

心臓外 ⑯

整形外 ⑰

リハ ⑱

皮膚 ⑲

形成外 ⑳

泌尿器 ㉑

腎外 ㉒

産婦人 ㉓

眼科 ㉔

耳鼻 ㉕

化学療 ㉖

放診断 ㉗

放治療 ㉘

放核医 ㉙

麻酔 ㉚

歯科 ㉛

救急 ㉜

心不全 ㉝

がんゲ ㉞

健診 ㉟

病理 ㊱

薬剤 ㊲

検査 ㊳

超音波 ㊴

臨床工 ㊵

看護 ㊶

血管治療 ㊷

消化器 ㊸

呼吸器 ㊹

生殖医療 ㊺

腎臓病 ㊻

ロボット ㊼

女性外来 ㊽

緩和 ㊾

下肢 ㊿

呼吸ケア ㉀

NST ㉁

認知症 ㉂

褥瘡 ㉃

RRT ㉄

転倒予防 ㉅

内科専 ㉆

外科専 ㉇